

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
<http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/>



JF 高松市北浜町8-25
TEL 087-825-0350
FAX 087-851-0699
JF香川漁連



謹賀新年



香川県漁業協同組合連合会

代表理事会長 服部 郁弘

年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会業務運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜りありがとうございました。

さて、日本経済の状況は、年末の衆議院解散選挙の結果、自民党・公明党の与党圧勝に終わりました。景気浮揚政策であるアベノミクスは、今後も引き続き推進されることとなり、地方にもその効果が波及するか、今後の景気動向に対し注視が必要であります。ただ、水産業界においては、懸念事項であるTPP交渉が日米二国間協議でも大筋合意に至っておらず、先行きの不透明感が拭い去れない感があります。

本県の漁業におきましては、魚価の低迷、ノリ養殖では栄養塩不足による色落ちや食害の問題、燃油や養殖用餌飼料については、円安の進行による漁業コストへの影響が懸念されます。また依然として厳しい漁業経営が続いているため、後継者が育たず高齢化が進み組合員の減少が進んでいます。

このような中ではありますが、本会引田加工センターが10月にHACCP認定工場となりました。今までも厳重な衛生管理のもと、ハマチ・カンパチ・タイ等のフィーレを国内に出荷しておりましたが、今後は多くの輸出先国が求めている国際的な食品衛生管理手法であるHACCP基準を満たした水産加工施設として、国内外に養殖魚類販売、香川県の水産物販売の拠点としての役割を果たし、本県水産業の発展を図る所存です。

また本会といたしましては、本県水産業が抱える諸問題を克服し、将来に向けて漁業を安定的に継続していくために、漁船漁業については資源管理型漁業と放流事業を推進し漁獲量の安定を目指

します。魚類養殖業やノリ養殖業については関係団体と協力しながら生産性の向上に取り組んでまいります。さらに、漁業者が減少する中、漁業基盤の強化を図るため、漁協組織再編や事業再編等を検討し、漁業経済活動の活性化及び持続を図るための方策について検討いたします。また、ライフジャケット着用推進による海難事故の防止対策に協力してまいります。

本年も、関係団体、県、系統、業界が一丸となりまして「さぬき海の幸販売促進協議会」の事業を継続し、県民に広く浸透してきたオリーブハマチなどのハマチ三兄弟、香川県産ノリ・イリコや讃岐でんぶく、さぬき蛸などの県産水産物の消費拡大を図り、ブランド化の推進やPR活動を通して、県産水産物のおいしさを広く知っていただけるよう消費の拡大に努めてまいります。

厳しい経営環境が予想されるなか、会員・所属員の経済的、社会的地位の一層の向上を目指して諸事業に取り組んで参る所存でありますので、組合員各位をはじめ関係者諸賢におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様方の限りないご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。



香川県かん水養殖漁業協同組合

代表理事組合長 嶋野 勝路

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

師走の総選挙において政府与党は定数の3分の2を上回って325議席となり、安倍政権の継続が決まりました。会見では「景気回復の温かい風を全国津々浦々に届ける」と訴えました。

顧みますと昨年のかん水養殖業は前年に続きハマチ、カンパチの種苗の少なさから、種苗原価が高騰して池入に困難を極めました。夏場の水温が例年より低く、ハマチには適水温であったもののカンパチの成長が悪く4kg超えが余り出荷されず、12月中旬で完売はしましたが浜値が低迷して厳しい結果となりました。ハマチについては出荷当初から10数年ぶりの900円台の価格となり、堅調に推移して収支の好転が見られました。真鯛、トラフグは在池量の多さから安値で推移し、漁家経営は一段と厳しさを増しております。

一方で、かん水ブランドのオリーブハマチは30万尾生産計画をして、県内外のデパート、スーパー、量販店から好評をいただき、引田ブリ、直島ハマチと共に、販路拡大して「香川ブランドハマチ三兄弟」を確立しつつあります。

円安、株高で国内の景気はデフレ脱却の改善の兆しは見えていますが地方においては未だ、波及しておらず取り分け漁業では燃油の高止り、漁業資機材の高騰等、相も変わらぬ輸入水産物の増大、天然ブリ資源の豊漁等、魚価は低迷して経営を大きく圧迫しています。水産庁では新制度の積立プラス、燃油、飼料等高騰対策に取り組み、漁家経営の安定に資するものとして一定の役割を果たしてくれてはいますが今後も、餌料対策は喫緊の課題となっており、全海水あげて強く要望をしていく所存です。

本県魚類養殖業の生産量は減少傾向にあります。各浜において魚類養殖の灯を消さず、額に汗して働いた組合員が報われるよう官民一体となり県水産課並びに香川県漁連と連携を図り、役職員一同、心を新たに本組合運営に邁進していく所存です。

組合員皆様には格別のご理解ご協力をお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



香川県海苔養殖研究会

会長 西口 正弘

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

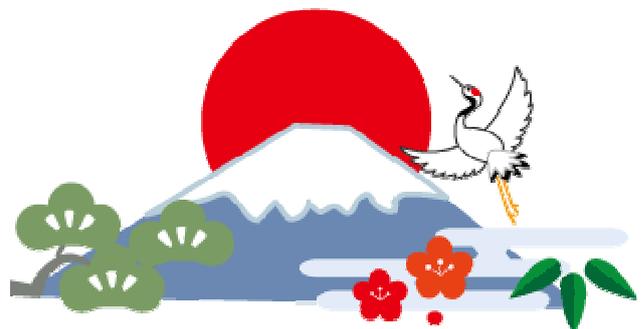
昨年漁期を振り返って見ますと、漁期当初より栄養塩がかなり少なく第1回共販より色落ち傾向で無札も発生いたしました。しかし1・2月になると栄養塩もいくらか回復傾向となり、また、価格も下物高に支えられました。とは言うものの前半の不漁が響き、2月には網揚げが開始され終漁へと向かいました。結果は25億円程度に落ち込み、散々たる結果に終わりました。

さて26年度は、年初は冬季オリンピックが開催され日本中が盛り上がりました。観光業界でもディズニーランド・ハリポターのUSJ等が好況を呈しています。年末に衆議院の解散がありアベノミクスの賛否を問うような選挙になりましたが、自公与党の圧勝で終わりました。円安が進み自動車等の輸出関連は好調ですが、輸入関連は値上傾向であり、我々海苔業界もまだまだアベノミクスの恩恵は受けていません。期待したいものです。

今年のノリは12月になると伸び悩み、食害に加え断続的な強風により生産がままならず、品質・価格は昨年よりは良好であるものの思ったより生産枚数は伸びませんでした。

本年も、各種イベントに参加して香川県産海苔の普及PR活動に力を注ぎ、今後の消費拡大に役立てて行きたいと思っております。また、現在使用中の初摘み認証マークも解り易いものに変更していきたいと考えています。

最後になりましたが、関係各位の皆様のご健勝と本漁期の結果が良くなることを祈念しまして年頭のご挨拶と致します。



香川県無線漁業協同組合

代表理事組合長 服部 郁弘

新年、明けましておめでとうございます。

平成27年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当組合の事業運営につきまして、組合員の皆様を始め、関係官庁・関係団体の皆様には、格別のご協力とご支援を賜り誠に有難うございます。

当組合の組合員数は、高齢化や携帯電話の普及により減少傾向にあります。このため、昨年は、漁業無線従事者養成講習会を開催し、30名の方が従事者資格を取得する事ができました。従事資格の取得者が増えることにより、当組合の組合員数増加に繋がることを期待しております。

平成25年度から国の水産多面的機能発揮対策事業を利用し、デジタル無線機を導入した海難救助訓練の取組みを6組合で実施しております。デジタル無線機は受信した各種気象情報や緊急通報などが文字で蓄積される優れた機能があり、漁船の安全性の向上に貢献することが期待される為、今後も有用に利用して頂きたいと考えております。

スプリアス規格の変更が予定されており、平成19年11月30日以前に製造された無線機器に加え、平成24年11月30日以前に製造された船舶レーダーも変更の対象になっております。この無線機器や船舶レーダーは平成29年11月30日までに免許を受けていれば、再免許申請により平成34年11月30日まで使用することができます。今後新たな動きも予想されますので、情報が入りましたら、お知らせしたいと考えております。

また、総務省では、船舶の衝突事故防止を図るために自船の位置を発信することで簡易型船舶自動識別装置（AIS）や、航行する船舶との共通通信の手段として国際VHF無線機を装備することを推進しているところです。

漁船漁業の操業の安全、生産性の効率化を図るため、漁業無線の円滑な運用に努めていく所存ですので、組合員の皆様をはじめ、関係官庁並びに関係団体からのご指導・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

最後に、皆様方のますますのご繁栄とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

一般社団法人 香川県水産振興協会

会長 服部 郁弘

新年明けましておめでとうございます。

平成27年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は、当協会の業務推進につきまして、会員を始め関係者皆様には格別のご支援、ご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

さて、本県水産業は一部の魚種で豊漁も見受けられますが、近年漁獲量は総じて低迷しております。また、国内では魚離れが急速に進んでおり、本県も例外ではありません。しかしながら、豊かな瀬戸内海で漁獲・生産された本県の水産物は安心・安全で栄養価が高く、なにより美味です。ぜひとも若い方をはじめ多くの方々に召し上がっていただきたいものです。当協会では、学校給食への食材活用、地産地消・食育の推進に加え、「さぬき海の幸販売促進協議会」に参画することにより、県産水産物のPRに今後も継続して努めて参ります。

また、水産資源の維持・増大を図るべく大型種苗放流事業を継続実施し、さらに放流効果を科学的に検証するため、平成24年度からキジハタの放流技術開発の共同研究に取り組んでおります。本共同研究は平成27年度が最終年度となりますが、放流したキジハタは一昨年夏から再捕されており、現段階で大きい個体では25cmに成長していることを確認しています。

漁場環境保全対策事業としては海浜清掃事業等の支援、また、県漁連、県水産課、ライフガードレディースかがわ及び海上保安部等関係機関と協力し、海難事故を未然に防ぐため、ライフジャケットの着用推進に努めております。しかしながら、昨年は漁船による海難死亡事故が本県海域において、不幸にも2件発生いたしました。海難事故を全て防ぐことは困難ですが、今後も海難事故の未然防止に向け、ライフジャケットの着用推進運動等を積極的に推進していきたいと考えております。

最後に、平成27年が事故無く豊漁となりますよう祈願し、併せて会員並びに関係者皆さまのご活躍とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 岸 宏



新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、全国津々浦々でご活躍中の組合員並びにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

改めて申しあげるまでもなく、漁業を取り巻く情勢が大きく変化している中、JFの原点、役割、使命が今、大きく問われております。

JFの原点は「浜」にあります。「浜」の安定化なくして、JFの健全経営はありません。JFの健全化なくしてJFの役割発揮もありえません。

そのため、我々は昨年1月にJF全国代表者集会を開催しました。そこで「浜の活力再生」、「組織・事業基盤の確立と人づくり」、「漁村活性化に向けたJFグループの役割発揮」の3つの柱とした5か年の運動方針『水産日本の復活』に向けたJFグループの挑戦をグループの総意のもと採択し、浜の再生と浜の活力を取り戻すことを誓いました。

浜の活力再生プランを完遂し、浜が自ら変わることが、我々が求める政策の実現につながり、JFの存在が国民に認知され、その負託に応えることとなります。

水産日本の復活に向け、本会では昨年より全国的に「プライドフィッシュプロジェクト」を展開し、そして今年はシンガポールに将来のJFグループの輸出拠点となる店舗の開店を予定しています。また、全国の浜々では省燃油型漁業の実践、漁獲物の付加価値向上のための農商工連携、6次産業化などの取組みが広がっています。

各地でのこうした貴重な取組みがある一方、昨年11月に北京で閣僚会議が開催されたTPPについては、依然として重要な情報の開示がなされておらず予断をゆるさない状況が続いています。我々としてもこれまでの主張のとおり主要品目の関税、漁業補助金の維持を政府・与党に強く求めて参らなければなりません。

全国の組合員並びにグループの皆様におかれましては、その英知と総力を運動方針の実践を通じた水産日本復活への果敢なる挑戦に結集していただきたくお願い申し上げます。

最後になりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆様のご安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。



乾海苔初入札

平成26年度県内産養殖ノリ（乾海苔）の初入札会が、12月17日（水）高松市瀬戸内町の本会共販所において開催されました。

初共販には18漁協から新ノリが出品されました。

海況では栄養塩は昨年より高い数値で推移し、ノリの色つやはおおむね良好です。海水温は平年より1℃～1.5℃低い状態が続いています。一部の漁場ではチヌやボラによる食害もありました。また、12月上旬の風波により生産ができなかった事もありましたが、第1回の上場枚数は昨年を上回り共販枚数は、13,676千枚（昨年12,191千枚）となりました。

初入札の結果は入札金額151,812千円（昨年70,101千円）前年対比216%、平均単価は11.10円/枚（昨年5.75円/枚）でした。これから県下全地区で本格生産に入りますが、今漁期の豊作を心より期待致します。

* 主な行事予定(1/1~1/31) *

- 1月5日(月) 仕事始め
- 5日(月) 中央卸売市場新年初市祈願祭
- 10日(土) 第3回乾のり入札
- 18日(日) 第4回乾のり入札
- 25日(日) 第5回乾のり入札